

子供たちに大人は何を残すべきか

校長 柏木 博之

「鹿児島といえば？」と県外の人に聞いたら、「桜島」と答える人が多いはず。桜島は鹿児島のシンボルです。シンボルだけだと災害の源でもあります。火山としての災害が起こります。それだけではなく、梅雨や台風の時期は、火山灰や火山岩などの堆積している火山噴出物が雨水によって流れて土石流になります。



昨年、国土についての授業をするために桜島を様々な角度から調べてみました。桜島研究の第一人者井口正人教授（京都大学防災研究所附属火山活動研究センター）にお話を聞いたところ、2020年代に大正大噴火と同じくらいマグマがたまると教えてもらいました。大正大噴火と同じくらいの噴火が起こるとは言っていませんでした。でも、大噴火が起きて大丈夫なように準備は今からしないといけません。だれが準備するのでしょうか？将来、社会で活躍する今の子供たちが準備するものではありません。もちろん大人です。

桜島で1年間に発生する土石流は何回ですか？日本で1年間に発生する土石流は何回ですか？

桜島では年間約20回の土石流が発生します。日本では年間で約200回です。なんと日本で発生する土石流の約10%は桜島で毎年発生しています。30年ぐらい前まで、桜島では土石流が発生すると、人よりも大きい火山岩が橋を壊したり、道路をふさいだりしていました。今はほとんどこのような被害は起こりません。県や国が砂防ダムをつくり、川を深くして両岸をコンクリートで固めて、土石流をコントロールし海まで流しているからです。この技術は土石流被害がよく発生する約20ヶ国に供与されています。技術供与されている20数カ国以外の国々、特に、ヨーロッパは日本と国土が違い、土石流はほとんど起きません。それらの国と社会資本に使う予算を比べても意味がないことや日本に住む人間の命・生活を守るために、民間資本ではできないこのようなインフラの整備と維持が絶対に必要なことがよくわかりました。以上のような話を、硫黄岳という火山が身近にある子供たちにも1学期の全校朝会で話しました。

自然災害でもう一つ考えなくてはならないのは地震です。大正大噴火のときは鹿児島市でマグニチュード7の地震がありました。日本の国土面積は世界のわずか0.25%です。しかし、地球で起こるマグニチュード6以上の大地震の20%が日本で起きます。高速道路や鉄道の橋脚は地震のない国のそれより、コンクリートをいっぱい使い太くする必要が当然あります。そうしないと阪神大震災の高速道路のように橋脚が折れて、人命が損なわれてしまいます。そのような地震にも耐える社会をつくり維持するのは、大人の責任です。子供たちにツケを回さずに、必要なものを造り維持管理することも知りました。昨年の東日本大震災のとき、堤防や防波堤が壊された報道がよくありましたが、それらのおかげで被害が軽減した事実から目を離してはいけません。また、明治時代に作った堤防のおかげで津波の被害を受けなかった地域もありました。当時の人たちが、将来の住民が命を落とさないように、汗水流してお金も出して築いてくれたおかげです。

このように、目先のことにとらわれすぎず、20年30年先、今の子供たちが大人になって活躍するときに、命を守り、今と同じような生活ができ、もっている力を発揮させられる社会環境を整えてあげることが、今の大人がすべきことのひとつであり、そのために大人は責任を持って行動していくべきということを昨年学びました。子供たちの学力を向上させる学校・教師の責任とともに、社会に対する責任を、大人として常に忘れずにいたいと思っています。

ジャンベ留学生との“弁当給食”

2日（金）に、ジャンベ留学生との弁当給食を実施しました。この日は風が無く暖かな日で、外にブルーシートを敷いて留学生を招いてみんなで楽しく“弁当給食”をいただきました。ジャンベを教してもらったり、行事などで一緒に活動したりしているジャンベ留学生へのお礼の気持ちを込めて招待しました。

給食の後はジャンベ留学生と一緒にサッカーなどをして遊び、交流を深めるよい機会となりました。



みんなでがんばった“文化祭”

9日（金）に文化祭を実施しました。小学部の発表「見上げてごらん夜の星を」は、自分の夢や希望を星に願いを込めて発表するという内容でした。また、中学部の劇「特攻兵江名武彦からの伝言」は、戦争のあった時代に三島村での実話を基にして、平和について考えさせる内容でした。そして、児童生徒・職員による手話「ビリーブ」では、お互いに協力し合いながら練習の成果を發揮しました。さらに、たけんこ学級による詩の朗読・合唱などバラエティあふれる発表参加もあり、充実した内容の文化祭を実施することができました。舞台発表だけでなく展示発表も含めて、子供たちは、日頃の学習の成果を生かした発表を披露できたのではないかと思います。御多用の中、御参観いただいた保護者や地域の皆様方、本当にありがとうございました。



「地域が育む“かごしまの教育” 県民週間」 授業参観・スポーツ大会

1日（木）～7日（水）は「地域が育む“かごしまの教育” 県民週間」でした。期間中の6日（火）には、授業参観及びスポーツ大会を実施しました。

保護者の方々はもちろんのこと高齢者の方々にも、日頃の子供たちの学習や学校の様子を参観していただくことができました。恒例のスポーツ大会は、都合によりいつもの高齢者とのふれあいグランドゴルフではなく子供たちだけの大会となりましたが、子供たちがペアを組み、お互いに協力し合ったり、談笑したりして、楽しく過ごすことができました。保護者の方々をはじめ、地域の方々に学校の教育活動を知っていただくよい機会となりました。



職場体験学習

12日（月）・13日（火）の2日間 中学1・2年生の3名が職場体験学習をしました。役場出張所、米村牧場、冒険ランド、開発センター、ヘルパーさんの5件の事業所の方々に仕事の内容の説明をいただきながら、職場体験をさせていただきました。御協力ありがとうございました。それぞれの職場の役割や意義、働くことの大切さや充実感について知る大変よい機会となりました。



児童生徒会活動がんばります。

児童生徒会の後期活動に向けて役員改選を行いました。その結果、下記のように役員が決まりました。全児童生徒16人が「一人一役」で責任をもって、よりよい学校生活を築くために頑張ろうと決意を新たにしました。

- [児童生徒会長] 正野崎聖智 (中2)
- [児童生徒会副会長] 森山 泉梨 (中1)
- [書記] 平田 典哉 (小6)
- [会計] 樋渡 哲太 (小5)
- [生活委員会委員長] 佐藤 彪 (小6)
- [保体委員会委員長] 佐藤詩緒里 (中2)